

NTT東日本・NTT西日本 から通建会社へ感謝状 【VE・VA提案】

(一社) 情報通信エンジニアリング協会

通建会社の優れたVE・VA提案活動に対して、NTT東日本様・NTT西日本様より感謝状が贈呈されました。感謝状が贈呈された案件は以下のとおりです。

《NTT東日本より表彰》

	案件名	会社
NW事業推進 本部長表彰	マンホール受枠固定ボルト キャップの改善	株式会社TTK

《NTT西日本より表彰》

	案件名	会社
副社長表彰	接続端子かん用ロッドクリップの改良	シーキューブ株式会社 株式会社ミライト・テクノロジーズ
NW部長表彰	地下埋設物防護具「CSボックス」の導入及び標準化の提案	株式会社ソルコム
	マンホール受枠固定ボルト キャップの改善	株式会社TTK

各開発案件の概要を、以下に紹介します。

マンホール受枠固定ボルトキャップの改善

提案者

(株)TTK
基盤施工センタ
代表者 三田村 篤
部門 基盤

TEL : 022-297-5151

概要

マンホールの受枠はボルトを使用し固定するため、ボルト部にモルタルが付着しないよう、ボルトにキャップを被せています。

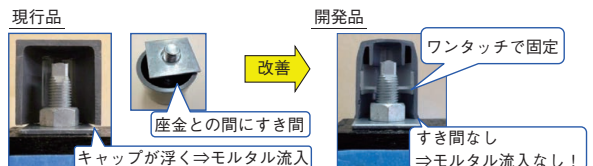
そのため

- ①モルタル打設時にずれないようにキャップに重しをのせるなどして作業するため、作業性が悪い。
- ②キャップをのせる角座金とキャップ間に隙間があるため、モルタルがネジ部に付着する可能性がある。

【開発品】



【現行品からの改善点】



等の問題がありました。

「マンホール受枠固定ボルトキャップ」は、マンホール受枠固定ボルトのネジ山にキャップが固定できる形状にすることにより、モルタル打設する際キャップの押さえが不要になります。

また、キャップが固定となるためキャップ移動が発生せず、座金との間に隙間が発生しない寸法、形状により、ボルト部へのモルタル付着防止が確実にできます。

特長

①作業効率の向上

モルタル打設時のキャップの押さえが不要になり、作業性が向上します。

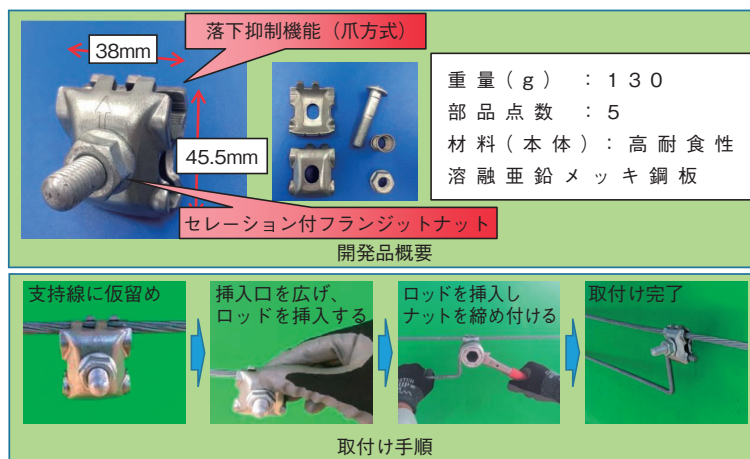
②品質の向上

座金とキャップの間に隙間がないため、ネジ部へのモルタル付着を確実に防止できます。

■ 接続端子かん用ロッドクリップの改良

提案者

シーキューブ(株)
 NTT事業グループ 技術開発部
 加藤 喜大
 部門 アクセス
 TEL：0568-44-0514
 (株)ミライト・テクノロジーズ
 HRD本部 (人材開発)
 関西ハイパーテクノポート
 大久保 宗幸
 部門 アクセス
 TEL：078-940-4610



改善内容

ロッドクリップの材料を見直して新たな接続端子かん用ロッドクリップ（以下「ロッドクリップⅡ」という）を開発しました。材質を高耐食溶融亜鉛メッキ鋼板（ZAM）に変更することで施工性が向上しました。

物品

- ・ 現行の物品量から35%軽量化し、コスト削減も実現しました。
- ・ セレーション付フランジットナットに変更しました。
- ・ 使用部品数を削減しました（6点⇒5点）。

効果

- ・ 落下抑制機能（爪方式）とスプリングにより仮留めが素早くでき、ロッドの取付けも容易になります。
- ・ 支持線外径によってロッドクリップⅡの使用面を替える必要がありません。
- ・ 取付け可能支持体は現行品と同等です。

■ 地下埋設物防護具「CSボックス」の導入および標準化の提案

提案者

(株)ソルコム
 土木事業部
 樋口 徹
 部門 土木
 TEL：082-256-4886

概要

NTTの標準実施方法において、浅層埋設管路の防護方法が規定されており、最も浅い場合、「防護コンクリート+セラミック板+鋼板」という工法になっています。現在の工法では、縦断方向の舗装カッターに弱く、設置にクレーン車等の重車両が必要となります。

これらの課題を解消するため、国土交通省NETIS（新技術情報システム）にも登録され、電線共同溝や情報ボックス工事をはじめ、電力や

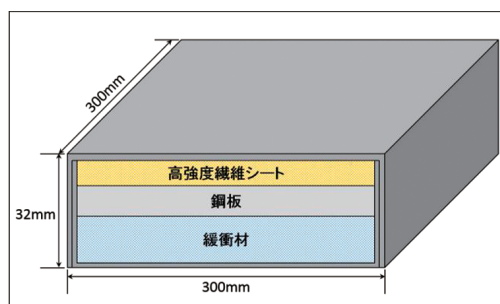


写真1 CSボックスの構造



写真2 使用状況

ガス工事でも採用されている地下埋設物防護具「CSボックス」を、NTT地下管路の浅層防護工法として、提案しました。

特長

- ① 舗装カッターに対して、高強度繊維シートがカッターに絡まり、回転を停止させます。

- ② プレーカーの打撃に対して、鋼板と緩衝材により貫通を防止できます。
- ③ 設置作業にクレーン等の重車両が不要となり作業性が向上します。